

1 物理学者・中谷宇吉郎に関する科学史学的研究

科学研究費補助金（基盤研究（C））により「雪氷科学者・中谷宇吉郎の研究を、歴史的・社会的な文脈に位置づけるための調査研究」の第2年度目を計画に沿って進めた。中谷宇吉郎は、雪氷に関する研究で知られていると同時に、数多くの啓蒙的な著作（随筆）を通して一般の人々にも広く知られている科学者であるが、そうした「中谷宇吉郎」像は、「中谷宇吉郎」の実像とは大きくずれている可能性がある。そこで、これまで科学史の研究ではほとんど利用されてこなかった資料を活用し、さらには新しい資料も発掘することで、中谷宇吉郎の実像を明らかにするとともに、その中谷を歴史的・社会的な文脈に位置づけて再評価しなおすのが、本研究の目標である。University of Illinois, North Carolina State Universityにあるマニスクリプト・コレクションの中に、中谷に関する資料を発見するとともに、SIPRE (Snow, Ice, and Permafrost Research Establishment) のResearch Paperなどを丹念に分析することで、上記の目標に沿って解明を進めた。また日本国内でも、財団法人農業研究所の資料室に保管されていた中谷から石黒忠篤に宛てられた文書類を発見した。これも中谷の農業物理学分野での研究活動を知るうえで、貴重な情報となる。こうした資料も活用することで、中谷の物理学分野での研究が、第二次世界大戦や終戦直後の社会情勢と密接に関係していた様を具体的に明らかにするものであり、彼の研究を歴史的・社会的文脈に位置づけることに向け、大きく前進することができた。来年度に研究成果を公表できるよう、調査結果の取りまとめを開始している。

2 科学技術コミュニケーションに関する研究

研究者の科学技術コミュニケーションに対する意識と実際の活動経験の関係を、大規模質問紙調査から分析する研究をJST科学コミュニケーションセンターと共同で行った。これまでに、科学技術コミュニケーション経験者と非経験者では科学技術コミュニケーションに対する規範的意識や、得られる効果に対して差がみられるといった知見が得られた。今後は活動形態との関連を分析するとともに、科学技術コミュニケーションを、素朴な規範論ではなく、研究者の社会的責任の文脈で位置付けることが可能かどうかについても考察を続けていく予定である。また、専門教育で求められる科学技術コミュニケーション教育について、その現状と課題を他大学の研究者と共有し、2度の学会発表を行った。加えて科研費最終年度として、前任校で行っていた科学技術コミュニケーション教育の現状に関してヒアリング調査等を行った。これらから得られた知見は科学技術コミュニケーション教育・研究の改善のための有益な情報となる。CoSTEP教員としては、研修科生2名（北大M2・社会人）を受け入れ、それぞれがサイエンスライティングに関する教育プログラムと、科学技術コミュニケーションと著作権をテーマとして実践・研究を行った。